

## 会 議 録

会議名	令和6年度第1回東浦町障がい者自立支援協議会	
開催日時	令和6年5月23日（火） 午前10時から午前11時25分まで	
開催場所	東浦町役場 合同委員会室	
出席者	委員	成田里佳氏、今井友乃氏、高見靖雄氏、清水明史氏、山崎紀恵子氏、小野嘉久氏、間瀬万梨氏、小田薫氏、榊原和浩氏、山崎千佳氏、井手亮介氏、鋤田素羽氏、横尾勝己氏、鈴木昭宏氏、中島修一氏
	事務局	鈴木健康福祉部長、岩本学校教育課統括課長補佐、堀社会福祉協議会介護事業係長、小田障がい支援課長、笹俣障がい支援課長補佐兼障がい支援係長、障がい支援課杉原主任・丸山主査、青木児童課長、三浦健康課長 ひがしうら相談支援センター 辻センター長、間瀬相談支援専門員、高津相談支援専門員、神谷相談支援専門員
議題	1 令和6年度各部会等の取り組みについて 2 令和5年度基幹相談支援センターの事業実績について 3 その他	
傍聴者の数	1名	

<p>審議内容</p>	<p>◆事務局        今回、委員 20 名のうち過半数の方が出席していることから、東浦町障がい者自立支援協議会会則第 5 条第 2 項に基づき、自立支援協議会を開催する。</p> <p>1 あいさつ        ◆健康福祉部長        (あいさつ)</p> <p>2 議題        (1) 令和 6 年度各部会等の取り組みについて</p> <p>◆事務局        各専門部会の今年度の取り組みについて説明</p> <p><u>精神障がい地域生活ワーキング</u>        ・「精神障がい地域生活ガイドブック自分らしく」の更新        ・精神保健に関する相談支援の体制整備のため、相談窓口の一覧表の作成        ・精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて協議</p> <p><u>地域生活支援拠点ワーキング</u>        ・「ハイリスク世帯把握表」の更新        ・「地域生活支援拠点担当者配置についての協議</p> <p><u>権利擁護・虐待防止ワーキング</u>        ・東浦町内各法人（事業所）の虐待防止委員会開催状況、全職員研修状況、身体拘束適正化に関する取り組み状況の確認        ・事業所向けの権利擁護、虐待防止研修会の開催        ・令和 6 年 4 月からの合理的配慮の提供の義務化に基づく各事業所の状況確認</p> <p><u>働く場所開拓ワーキング</u>        ・農家から依頼された作業の実施        ・摘果ぶどう作業、商品の販売</p> <p><u>防災ワーキング</u>        ・個別避難計画の作成</p> <p><u>特別支援学校との連絡調整会議</u>        ・特別支援学校在校生の進路状況と実習状況、卒業生の支援状況等の把握        ・町内各事業所の新規利用の受け入れ状況の把握</p>
-------------	--

相談支援事業所連絡会

- ・相談支援専門員のスキルアップのための事例検討や研修の実施
- ・児童のセルフプランの解消の維持を目指すため、療育の入口支援における関係機関と相談支援事業所との連携をさらに強化していく。

放課後等デイサービス事業所連絡会

- ・「東浦町放課後等デイサービスガイドブック」の更新
- ・事例検討の実施

医療的ケア児等支援ワーキング

- ・町内の福祉サービス事業所や保育園、小中学校で医療的ケアが必要な児童を受け入れるための体制づくりに関する協議や検討
- ・個別のケースからニーズの把握や課題を抽出
- ・医療的ケア児支援センターとの情報共有

児童発達支援事業所連絡会

- ・児童発達支援事業所から保育園、幼稚園に移行した児童についての確認
- ・町内の児童発達支援事業所のリーフレットの作成について検討

人材育成研修とひがしうら作品展

(質疑応答・意見等)

◇委員

地域生活支援拠点について、前年度から体験の利用がない。もう少し、周知等をしてほしい。

◆事務局

医療的ケア児については、にじいろのいえで実施ができる。地域生活支援拠点の周知については、今後進めていきたい。

◇委員

くすの樹で夏に実施する計画がある。

◇委員

児童のセルフプランの解消について、進んでいることはいいことだが、病院とかからつながってくる児童も多くいると思う。その場合は、どこが最初の窓口となっているか。

◆事務局

保健センターが最初の窓口となっている。ワーカーがいないような小さな病院からも保健センターが受けることとしている。

◇委員

個別避難計画について、様式は公表しているか。

◆事務局  
公表はしていない。

◇委員  
他市町でも防災に関するマニュアルはあるが、そこまで連携できている感じはしない。

◇委員  
支援学校の児童には、自分が実際に避難するときのイメージを持てるように教えている。

◇委員  
実際に地域で、避難訓練をおこない、その際にリアカーを倉庫から出してみたら、タイヤの空気がなく、空気入れ自体もなかったため訓練に使用できなかった。日頃からどこに何があるのか管理し、どのような状況であるかを確認しておくことの大事さを痛感した。

◇委員  
自立支援協議会のワーキングを減らしたが、必要なものとそうでない物を整理したことを評価する。逆に必要なものは重点的にやるようにしていく必要があると考える。

◇委員  
支援者向けの研修についてだが、福祉の業界をやめる人が多い。福祉の仕事が楽しいと思えるような研修を実施するのもありかと思う。

(2) 令和5年度基幹相談支援センターの事業実績について

◆事務局  
相談件数は、4,972 で前年度より 897 件減少した。  
昨年度に引き続き 0～18 歳の相談比率 (24%) が最も多く、次に 40 代 (22%) が多い。  
障害種別では、精神障がい (40%) と知的障がい (23%) が昨年同様多い。  
児童の相談では、障がい種別については身体障がいが多い。町内に医療的ケア児が 19 名 (令和 6 年 3 月時点) おり、就園就学前の児童も多数いるため、相談件数が多くなっていると思われる。

(質疑応答・意見等)  
なし

3 その他

特になし

◆事務局

次回第2回協議会は、3月に開催予定

(閉会)